



11.住み続けられるまちづくりを

湘南藤沢キャンパス(SFC)が自然共生サイトに認定

慶應義塾は、環境省が発足した「生物多様性のための30by30アライアンス*」(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>)に2023年5月より加盟しています。

2025年3月、湘南藤沢キャンパス(SFC)が、環境省の2024年度後期「自然共生サイト」に認定されました。「自然共生サイト」は、生物多様性の価値を有し、事業者、民間団体・個人、地方公共団体による様々な取り組みによって、生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する、ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みの一つです。自然共生サイトに認定された区域は、国立公園などの法的に設定された保護地域以外で、生物多様性を効果的かつ長期的に保全する地域(OECM)として、国際データベースに登録されます。SFC自然共生サイトは、都市化が進む湘南藤沢地域において、豊かな自然環境が残り、生物多様性が高いエリアに位置しています。SFCでは、このエリアの自然環境・生物多様性の保全およびサステナブルな地域づくり・キャンパスづくりに向けて、教育・研究機関の場としての強みを活かし、最新の技術も取り入れた先進的な取り組みを積極的に実施してきました。今回の認定は、そうした自然環境・生物多様性の保全への取り組みにより、本地域に典型的な生態系や希少な生物が保全されていることなどが評価されたものです。

また、SFCの認定に先駆けて、慶應義塾保有の学校林(慶應の森)の一つである宮城県南三陸町の志津川山林も、南三陸FSC認証林の一部として2024年10月に2024年度前期「自然共生サイト」に認定されています。慶應義塾は、全国に所有山林や国有林分収契約山林を合わせ160ヘクタール超の山林を保有しており、志津川山林は慶應の森の全体の4割を占める64ヘクタールの面積を有する最大の学校林です。南三陸地方では、絶滅危惧種に指定されているイヌワシの生息環境再生プロジェクトが進められており、志津川山林もその対象地の一つとして貢献しています。

※ 「30by30アライアンス」とは、生物多様性の損失を食い止め、回復させる(ネイチャーポジティブ)というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。



SFCサイト全体図

佐賀県鳥栖市と脱炭素社会の実現に向けた相互連携協定を締結

2024年5月30日、メディアデザイン研究科(KMD)と佐賀県鳥栖市は、鳥栖エリア特有の「物流拠点となる企業集積地」「地域プロスポーツチーム」との連携を通じた脱炭素社会の実現を目的とする相互連携協定を締結しました。

本協定は2023年に締結された佐賀県との連携協定を踏まえ、鳥栖市とKMD双方の資源やノウハウを活用して持続可能な先進地域化を目指すものです。今回の協定では、大幅な省エネルギー化を実現する最先端のZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)とZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)*の理解促進ならびに導入促進など、脱炭素社会の実現につながる企業の新商品やサービスの実証にも取り組みます。

※ 快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間のエネルギー収支をゼロにすることを目指した建物のことで、ZEHは一般住宅、ZEBはビルや学校、工場など非住宅の建物を対象としています。(参考:東京都産業労働局 <https://www.httnavi.metro.tokyo.lg.jp/column12/>)



鳥栖市役所にて相互連携協定を締結(左から)岸博幸KMD教授、向門慶人市長

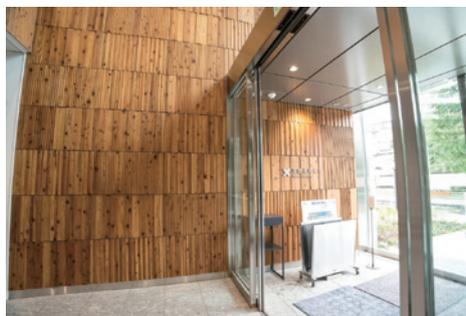
地球環境に優しい「紙で作ったアートフラワー胡蝶蘭」の生産・販売を開始

—熊本地震をきっかけに誕生した女性活躍を支援するスーパーウーマンプロジェクト—

メディアデザイン研究科(KMD)の地域みらいプロジェクトとMICOHANA株式会社(<https://micohana.jp/>)は、経済産業省九州経済産業局デザイン経営ゼミを通じて2022年8月より事業化研究を続けていた、紙で作る「スーパーフラワー」を活用し、2024年度に「アートフラワー胡蝶蘭」を商品化しました。日本の折り紙の技術を活かし、高級紙を使った花を一つひとつ手作りで作り上げることで、品質が長期に変わらない地球環境に優しい贈り花を提供するプロジェクトです。リサイクル・リユースが可能な供給体制の構築により、生花の売れ残りや規格外品の廃棄問題を解決し、環境や社会に優しい循環を実現します。また、在宅の隙間時間を活用した生産を可能にすることで、子育て中の主婦など外出困難な方の就労機会創出にもつながります。普及啓発に向けて、この取り組みに賛同しプロジェクトに参画している株式会社キーストン(<https://www.keys.ne.jp/>)の飲食店のネットワークを活用し、開店お祝いなどでの活用を通じてさらなる改善と需要の拡大に向けた実証を開始しました。

三田キャンパス北別館竣工

2025年3月19日、旧通信省簡易保険局庁舎跡地の再開発プロジェクトの一環として位置付けられている三田キャンパス北別館の竣工式が執り行われました。北別館の外装には、国内最高水準の日射熱除去性能を持つペアガラスを採用しており、高効率の空調機器や、人感・昼光利用センサーによる照明制御などの導入により、高い省エネルギー性能を実現しています。内装には、慶應義塾が所有する学校林の一つである宮城県南三陸町のFSC認証林・志津川山林で伐採された杉材を製材・準不燃処理し、壁材などに利用しています。北別館での木材利用によるCO₂固定量は約14トンに達しており、デザイン上の工夫により、様々なサイズの杉板や端材を無駄なく使用しています。また、靱殻やヒノキの再利用素材、再生木のデッキ、杉の間伐材を粉碎・加工したサインボードを用いるなど、持続可能な社会に資する建築として、SDGsの理念を随所に反映しています。



「志津川山林」の杉を使用したウォールアート

慶應義塾大学日吉子ども食堂開催

2024年6月22日、10月5日、12月21日に慶應義塾大学日吉子ども食堂を開催しました。本企画は日吉キャンパスにおける様々な社会貢献に関わるプロジェクトの中の、地域との交流実現に向けた取り組みの一つとして、2022年12月より実施されているものです。公認学生団体である「スローフードクラブ」に所属する学生が中心となって、慶應義塾におけるSDGs達成や地域と大学の関わりを深めるための取り組みの一つとして具現化し、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」の協力の下、日吉キャンパス教職員と共に企画・運営しています。

7回目となる2024年12月21日の子ども食堂には、日吉キャンパス周辺にある小学校4校から約30名の小学生が参加しました。「慶應の学生と交流しよう!」と題して、参加者と大学生と一緒にクイズや工作、食事を楽しみながら、交流を深めました。



第7回日吉子ども食堂の様子

成田空港にて地震防災演習を実施

2024年12月6日、成田国際空港株式会社、日本航空株式会社、慶應義塾大学は、成田空港にて地震防災演習を実施しました。三者が連携しての地震防災演習の実施は初の試みとなります。詳しいシナリオが事前に明かされない「ブラインド訓練」で、成田空港にて震度6強が観測された場合を想定し、空港スタッフによる地震発生時の初動対応や空港利用客の避難誘導、被害状況の確認および迅速な情報連携などを確認しました。防災意識の向上および地震発生時の対応に関して共通認識を持ち、空港利用客を安全に避難誘導する初動の実践を目的としています。訓練の様子を記録・分析し、より効果的な防災計画の作成に活かしていきます。

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議の提言を踏まえて提出された企画は、学内の審査委員会で審議され、採択されたものがプロジェクトとして稼働します。

慶應生と日吉の街の交流プロジェクト

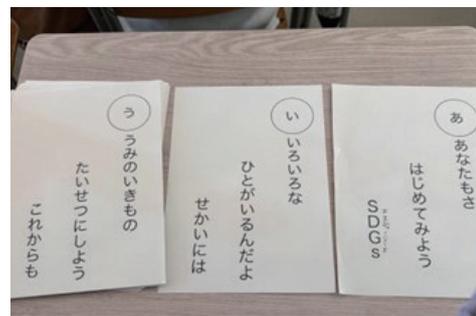
SDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」の実現のため、慶應義塾が地域社会で果たすべき役割を学生と地域住民の交流を通じて考えながら、「近くて遠い慶應義塾大学」から「街の誇りの慶應義塾大学」へと変革していくことを目指すプロジェクトです。日吉に住む小学生に焦点を当て、学生がキャンパス近隣地域の小学校や放課後キッズクラブを訪問し、本をテーマにしたワークショップを行うことで、慶應義塾も本も、より身近に感じてもらうことを目指す「大学生ブックキャラバン～本とゲームで楽しもう～」と塾生会議×師岡小プロジェクト「探求活動一師岡小版SDGsを実践しよう!」を実施しました。

2024年8月に横浜市立日吉台小学校放課後キッズクラブ(小学校1～4年生対象)、2025年1月に川崎市立木月小学校(小学校3年生対象)で「大学生ブックキャラバン」を実施し、SDGsに関する本の読み聞かせを通して日常生活で実践できるSDGsについて考え、SDGs宣言を行いました。また、2024年5月～12月、「師岡小学校版SDGsを実践しよう!」をテーマに、慶應義塾でのSDGsの取り組みを紹介しながら横浜市立師岡小学校でできることを考え、イルミネーション・カルタ・ポスターの3班に分かれて作品の作成・展示を行いました。

今後も、キャンパス周辺の小学校に活動をさらに展開していく予定です。



SDGs宣言作成の様子



SDGsカルタ

コンタクトケース回収プロジェクト

SDGsゴール12「つくる責任・つかう責任」とゴール14「海の豊かさを守ろう」を実現し、2030年までにプラスチックごみを20%削減することを目指すプロジェクトです。

独自のアンケート調査から、学生の約60%が使用していると想定されるコンタクトレンズに着目し、2024年12月18日、日吉キャンパスの5ヶ所にコンタクト空ケース回収ボックスを設置し、常時回収を可能にしました。また、2025年1月8日～1月9日、日吉キャンパス塾生会館前で、協賛企業である株式会社シード(<https://www.seed.co.jp/>)のクーポンや景品を用意したコンタクト空ケース回収イベントを開催し、計2841個を回収しました。

2025年度も管財部や協生環境推進室の支援の下、複数のキャンパスでの常設を予定しています。



コンタクト空ケース回収ボックス(画像左)

徳島県海部郡海陽町と地方創生に向けた包括協定を締結

2025年2月11日、メディアデザイン研究科(KMD)は、徳島県海陽町とメディア・教育ならびにコミュニケーションデザインの分野で協力し、過疎地域の持続可能な未来の創造を目的とする包括協定を締結しました。本協定は、過疎地域が抱える少子高齢化やコミュニティの希薄化といった課題に対して、海陽町とKMD双方の資源や技術を活用し、地域の活性化および地域課題の解決を図り、海陽町の地方創生を目指すものです。今回の協定では、メディア・教育ならびにコミュニケーションデザインの分野において、「小規模学校の強みを生かした新しい教育の実現」と「過疎地域における住民間交流の促進」に取り組みます。本協定による地域内外とのさらなる連携により、新たなイノベーションの創出が期待されています。



締結式の様子